

第1回新文化会館整備検討委員会 ミニワークショップの振り返り

出されたキーワード（アンケート含む）

文化を享受する場 (文化のたまり場)	活動しやすい土壌 (公民館活動)	楽しむ	「みる」 「演じる」 「ささえる」
学ぶ場所	自主活動	皆でやる文化	参加していることが誇り
心を満たす場	自立的な活動	一緒に創る	文化を育む
活動する場	地域の人が集まって創り出すところ	吸収し、継承し、発展させる力	感動する
ひろば(広場)	文化を発信する場	市民が文化を創造する	市民が使う文化会館

○ミニワークショップとアンケートからのご意見

- ・一流の壺家の話に対してお客様の反応が素晴らしい。そこが飯田の文化の高さの証明だと思う。
- ・伝統文化をきちんと守るということと、新しい文化を取り入れたり、飯田以外からかけつけてくれるというような広い視野で考えていかないと結論がでない。
- ・いい関係を作れば舞台をきっかけに、次世代の担い手が集まるキッカケにしたり、広がっていくことが可能になる。
- ・文化会館の箱ではなくて、ひろばであるというイメージで考えた時に、そこで何ができるのか。大事にしなければいけない部分の、そこで担えることは何か。
- ・地域の人たちが学ぶ場所であり、この場所に住んでいる人たちが、見たり聴いたりして、どういことを学ぶか、そういう場ができるか。
- ・人々が文化を主体的に受容し、暮らしと融合させている。
- ・この地域は、歴史的に芸術文化を受容し融合させ、暮らしの一部としてきた。
- ・飯田では、市民とプロと行政のコラボレーションによって、市民に文化芸術を伝え広めている。このような展開は、まさに飯田の文化的風土や土壌がもたらしていると言える。
- ・「市民が使う文化会館」・「市民が文化を創造する文化会館」・「市民とプロとのコラボレーションが文化を育む文化会館」・「市民が文化を享受する文化会館」

- ・舞台芸術のジャンルを振興していこうという「**芸術文化振興**」という役割がある。そこから近年は市民文化をどう深めていくか「**市民文化政策**」となっている。佐々木先生が話された「まち」と「文化」＝「**都市文化政策**」という風に、文化振興の幅が広がってきている。劇場に来ない市民にこちらを向いてもらい、劇場が市民の豊かな暮らし、この街の発展に貢献しているなど思ってくれれば、劇場に来ない人も認めてくれる。市民と地域社会と向き合っていくときに、どういう役割を担っていくのか。
- ・「こういう風だったらいいね」「飯田の文化はこういうもんだよね」それを**発信**したり、自分たちで維持していくためにも、こうあるべきだということを一度検証してみるということでは、すごく大事なこと。
- ・一般的にここのホールは音が良くない。と言われているが、有名な音楽家からはここのホールはすごく良いと。何が一番いいかという**と聴衆がいい**。いい演奏ができるのは、聴衆が乗せてくれたからだ。音楽は演奏家だけではなくて**聴衆も一緒に創るもの**。と言われた。そういったことも検証して、飯田文化会館は貸し館事業よりも自主事業が結構多いのが特徴。これは外部から言われてわかったこと。**市民を巻き込んで実行委員会**を作って数多くの事業を行っているところは全国的にも珍しいと言われた。それが市民にとっては当たり前になっているが、これも検証していく必要がある。**(お客様の反応、それが飯田の文化)**
- ・いままでのあり方を活かしつつ、**新しい文化会館で何ができるか**考えていく。
- ・公共ホールを運営していて思っていることは、「**いい観客をつくっていくこと**」がベース。そこに信頼できるプレイヤーに来てもらう。そして、そのプレイヤーを劇場から飛び出して、地域に連れて行く。子どもたちに出会わせる、福祉施設や商店街に連れて行って賑わいをつくる。それが両輪だと。
- ・飯田の人は**コミュニケーションが好き**なのか。**舞台と観客のコミュニケーション**ができたとか。観客はそこから何を受け取りたいか、結局自分の人生を楽しくしたいわけ。そこを作っていけるようにするにはどうするか。飯田の文化が城下町の商業の人たちの文化だけなのか、下條も歌舞伎をやっているが、**コミュニティーをつくるための文化**もある。それらを検証しておくのが土台ではないか。
- ・誰にでも「**寄りやすい施設**」に
- ・公民館を利用して活動し、指導者が誕生してくる。「**活動しやすい土壌**」である。起点となる施設になってほしい。
- ・「**市民が関わる**」のが飯田市の特徴であり、**文化になる**。
- ・ホール(舞台)での発表は子どもの心を育てる場所になっている。「**特別な場**」
- ・それは、見る側にとっても、出演する側にとっても「**心を満たす場**」
- ・まちは箱と箱の間、飯田は山と山の間、東中の生徒はりんごとりんごの間、こういった環境が人を育てている。間(あいだ、ま)が**人との関係をつくる**
- ・古くは人形浄瑠璃がこの地に伝わってきたとき、**若者のエネルギーがそれをこの地に留め、自主活動で定着させた**。

- ・「結」の心一つながっていくことー「みんなで」が文化のもとになっている
- ・文化を吸収し、継承し、発展させていく力
- ・市民の皆さんがいろいろと参加をして、いろんな活動がされているいろんな分野で活動ができる**多様な活動がしやすい**。活動の場が市内にある、これも大事なところ。
- ・外から来た文化、異なる文化を**吸収し発展させる力**があるんじゃないか。興味のある文化や取り込みやすい文化を自分たちで習いそれを広めていきたい。
- ・いろんな過去の歴史の中で、その時々**に文化の交流**がこの飯田の地でされたことが、今の飯田市の活動の下地になってるんじゃないか。
- ・過去を大切に**し継承する**。その上で、**新たな世界へも興味や期待も**持っている。
- ・人形劇に関しては、子供のころから「みる」「演じる」「ささえる」何かに関わっている。こんな地域は他にはない。そういうことを高校生が**当たり前**に思っていることが素晴らしい。
- ・市民が行政マンをうまく使う。**市民とプロの関係**も自慢できる。
- ・子供たち、自分たち、**皆でやっていることが文化**。参加していることが誇りになっている。
- ・人形劇は公民館活動に支えられている。飯田では「箱」でなく、**活動する場**。文化会館も活動する場であってほしい。地区公演も自らが楽しむものにしたいという意識が出てきている。
- ・「飯田」は、近隣町村や周辺地域、丘の上などからの**文化が入ってくる「たまり場」**
- ・飯田は様々な文化が入ってきて、**楽しむ、生かす、文化がある**。
- ・新しいものが生み出される、「**泉のように湧き出る場**」
- ・キーワード：「**楽しむ**」「**自分たちでやる**」「**いろいろな人が楽しむ空間**」「**自立的な活動**」
- ・公民館は貸す場でなく、自分たちで**活動する場**
- ・子供たち、自分たちとそのみんなで作っていく、**みんなで活動する**っていうところが一番言葉が出てきたかなと思って。**私達がやってること自体が文化だ**っていうことだとか、誰かにやらされているとかじゃなくて、本当に受身じゃなくて、自主的な活動というか、そういう活動、どんな形にしる、見るにしる、演じるにしる、支えるにしる、**いろんな形で関わっていく**ってことが、何か**飯田の文化**なのかなっていうところが改めて感じられました。何か大きなものを呼ぶっていうことだけじゃなくて、自主的な取り組みの発表だったり、関わりだったり、繋がりだったりって**いうことを大事にしているところが飯田**かなという話だったんじゃないかと思います。
- ・全体のところでもありましたけどよく、公民館っていうと他の地域だと、貸館、貸し出しの部屋を取る利用するだけのところが、飯田市の場合は文化会館もそうですし、各地域の公民館もそうですが**地域の人たちが集まって創り出すところ**、そこが本当に文化の創造の場所。

- その例えば文化会館っていうところ、で考えると、空間とか建物じゃなくて、**人の行動がその館になっている**というか、その場所になっていく。いつの間にかそういう場所に人が集まるっていうところになれたらいいなど。
- 地形の文化のこともあって、やっぱり**飯田市のこの地形**とか、なんていうんですかね自然環境の中の飯田で作られる文化っていうのをやっぱりもう一度振り返って大事にしたいなということを私も感じました。
- 一番最後に私が一番いいなと思ったのは、楽しくいろんな活動をするみんなが、**子供も大人も、みんなが楽しくできる**ことがやっぱりそれが自然に文化になっていて、**繋がって継承されて、ずっと途絶えない**ことがいいのかなと。
- 市民が使いたくなる**足を運びたくなる「場」**を創っていける学びが今後も大切。
- 飯田には、何事にも興味関心を示し、**何かを向上させようという気風**がある。
- 山に囲まれているので、昔から山のムコウの風景、文化について関心を持つのは自然なことだったと思います。東と西の文化が交じり合う場所として、**いろいろな考え方や文化を吸収しようというのも飯田の人々の特徴**ではないかという意見もおもしろい。
- 過去に学び、**新たな未来を創造するために**こうした異質な人たちとの**対話が重要**だと再認識した。
- 印象に残ったのは、**人と、それからアクティビティ活動に焦点が当たっている**っていうのが非常に印象に残りました。建物の話をまずするよりも、文化でその文化も文化そのものよりもそれを作っている**人だとか活動だとか**っていうお話が、非常にたくさん出てきたんですね。建物を作るんじゃないくて、**広場を作るイメージ**なんだっていうお話が出て、それを聞いたときに私もちょっと私の分野の話で恐縮なんですけども日本の元々の伝統っていうのは広場っていう空間を作って、そこを人が使っていくのではなくて、**人の行動が空間に意味を持たせてく**っていう作られ方をしてるんですね。
- 西欧の場合やスクエア・プラザっていうのが作られてそこに人が集まり、日本の場合には橋のたもとであるとか路地であるとか、神社の境内であるとか、そういうところを人が使いこなすことによって、そこが「**広場化**」されるっていうのがあります今日皆さんの話を聞いていて何かその「**広場化**」というイメージが私には湧いてきました。
- 何か箱があって、何かそこに外から人が来て、それを見に行くという受身の文化ではなくて、何か場所があって、そこをみんなが使って、**みんなが協力して一緒にやる**ことによってその場所が結果として**文化を発信する場所**になるというような、そんなイメージを私は持たせていただきました。